現金預金

普通預金・定期預金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　普通預金・定期預金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「普通預金」勘定（資産）

「定期預金」勘定（資産）

（1）預金の種類

日商簿記3級で出題される預金には、普通預金（ふつうよきん）、定期預金（ていきよきん）、当座預金（とうざよきん）があります。

（2）普通預金・定期預金とは？

普通預金は、いつでも預け入れと引き出しができる預金です。

定期預金は、預け入れはいつでもできますが、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年、5年などの預入期間が定められており、引き出しは原則として、預入期間が経過した時（満期日）のみとなります。

（3）会計処理

普通預金については「**普通預金**」勘定（**資産**）で、定期預金については「**定期預金**」勘定（**資産**）でその預け入れ（増加）や引き出し（減少）を処理します。

例題　**現金2,000円を普通預金口座へ預け入れた。**

普通預金という資産が増加しますので、「普通預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**2,000**	**現金**	**2,000**

例題　**現金3,000円を定期預金口座へ預け入れた。**

定期預金という資産が増加しますので、「定期預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
定期預金	**3,000**	**現金**	**3,000**

例題　**定期預金3,000円の満期日が到来したので、普通預金口座へ預け替えた。**

普通預金という資産が増加しますので、「普通預金」勘定（資産）の増加として処理します。また、定期預金という資産が減少しますので、「定期預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**3,000**	**定期預金**	**3,000**

（4）複数の口座を開設している場合

複数の普通預金口座や定期預金口座を開設している場合、管理のために銀行名を用いて口座ごとに勘定を設定することがあります。

例題　**売掛金5,000円が得意先から大手町銀行普通預金口座へ振り込まれた。なお、当社では銀行口座について口座種別と銀行名を組み合わせた勘定科目を使用している。**

普通預金という資産が増加しますが、本例題では口座種別（普通預金）と銀行名（大手町銀行）を組み合わせた勘定科目を使用していますので、「**普通預金大手町銀行**」勘定（**資産**）の**増加**として処理します。また、売掛金を回収しましたので「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金大手町銀行	**5,000**	**売　掛　金**	**5,000**

当座預金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座預金の内容を理解しよう！

②　小切手がどのようなものか理解しよう！

③　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

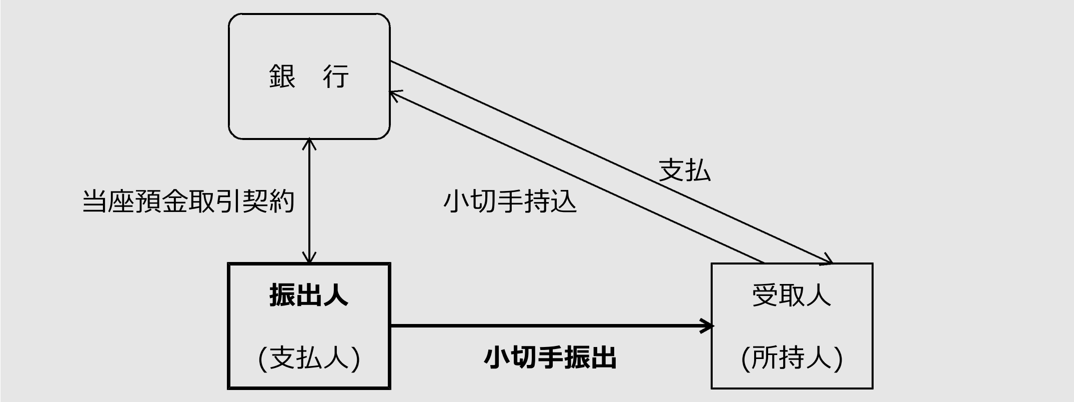
「当座預金」勘定（資産）

（１）当座預金とは？

当座預金は決済用の預金といわれ、利息が付かない点と預金を引き出すときに小切手を使用することが特徴です。当座預金については「**当座預金**」勘定（**資産**）で処理します。

小切手とは、振出人が小切手に記載されている金額を受取人（小切手所持人）に支払うことを約束する証券です。なお、小切手に金額等を記入し、相手に渡すことを**小切手の振り出し**といいます。

小切手を振り出した人がお金を支払い、小切手を受け取った人は小切手を指定の金融機関でお金に換えることができます。また、小切手を受け取った人はその小切手を支払手段として他人に渡すこともできます。



なお、簡略化した小切手の見本は次のとおりです。

小　　切　　手

支払地
○○銀行東京支店

金額　￥1,000,000※

上記金額をこの小切手と引き替えに持参人へお支払い下さい。

振出日2030年×月×日　　　　株式会社××商事
振出地　東京都　　　　振出人　代表取締役△△

（2）会計処理

① 当座預金口座に預け入れた時

当座預金口座に現金を預け入れたり、入金があった場合、当座預金という資産が増加するので「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題 **現金1,000円を当座預金口座に預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**1,000**	**現金**	**1,000**

② 小切手の振出

小切手の振出時にはまだ実際の銀行の当座預金口座から預金が減少していませんが、後日、小切手が持ち込まれたら当座預金口座から引き落とされるので、あらかじめ当座預金という資産を減少させておくため「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題 **A社から商品200円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**200**	**当座預金**	**200**

③ 小切手の決済

小切手を振り出した時に「当座預金」勘定（資産）を減少させていますので、仕訳は行いません。

例題 **当社振出小切手200円が銀行に持ち込まれ、銀行はA社に支払った。**

仕訳は行いません。

④ 自動引き落とし

当座預金という資産が減少しますので「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題 **水道代100円が当座預金口座から引き落とされた。**

水道代は「水道光熱費（すいどうこうねつひ）」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
水道光熱費	**100**	**当座預金**	**100**

（３）複数の口座を開設している場合

複数の当座預金口座を開設している場合、管理のために銀行名を用いて口座ごとに勘定を設定することがあります。

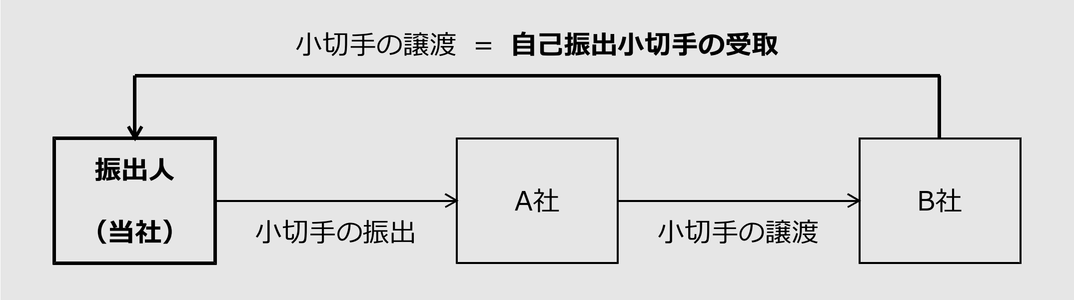
例題　**A信用金庫とB銀行に当座預金口座を開設し、それぞれ現金2,000円を預け入れた。なお、当社では預金口座について口座種別と金融機関名を組み合わせた勘定科目を使用している。**

当座預金という資産が増加しますが、本例題では口座種別（当座預金）と金融機関（A信用金庫、B銀行）を組み合わせた勘定科目を使用していますので、「**当座預金A信用金庫**」勘定（**資産**）および「**当座預金B銀行**」勘定（**資産**）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金A信用金庫	**2,000**	**現金**	**4,000**
当座預金B銀行	**2,000**		

（4）自己振出小切手を受け取った場合

以前に自分が振り出した小切手（自己振出小切手）が他社を経由して、自分が受け取る場合があります。小切手の振出時に、銀行の当座預金口座から減少することを想定して「当座預金」勘定（資産）の減少として処理していましたが、実際の銀行の当座預金口座は減少していません。そこで、自分が振り出した小切手を受け取った時には当座預金の減少の取り消しとするため、「**当座預金**」勘定（資産）の増加として処理します。



例題　B社へ商品2,000円を売り上げ、代金は自己振出小切手を受け取った。

小切手の振出時に以下の仕訳を行い、「当座預金」勘定（資産）を減少させています（仕入取引を仮定しています）。

仕　入　2,000 / 当 座 預 金　2,000

自分が振り出した小切手が銀行に持ち込まれなかったので、「当座預金」勘定（資産）を増加させます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**2,000**	**売上**	**2,000**